公表　保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	わいわいJr.

公表日 2026年3月20日

利用児童数 26名　　回収数 11名

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	10	1				
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	11					
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	11					
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	11					
適切な支援の提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	11				いつも困っている所、問題点について考えて下さり、工夫されており、感謝します。	今後も保護者の方や児童と関わりを持ちながら、支援に繋げていけるよう取り組んでいきます。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか 。	11					
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	11					
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援 」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	11					
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	11					
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	11					
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	6	2		3		今後の活動プログラムの中で、関わりが持てる機会を増やしていければと思います。
保護者への説明等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	11					
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	11					
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	10			1		今後の活動プログラムの中で、情報提供できる環境を検討していければと思います。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	11					
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	10			1		面談時以外でも気になる事がある際は、お話を聞く機会を作っていきサポート出来る環境を今後も作っていければと思います。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	11					
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	6	2		3		保護者会も含め、関わりが持てる機会を増やしていければと思います。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	9			2		児童の状況などその都度報告させていただけるよう取り組んでいますが、今後も適切な対応を行っていきます。

	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	11					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	11					
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	10			1		個人情報の取扱いについては、会社全体として研修を実施しています。今後も職員間で共有させていただきます。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	8	1		2		各種マニュアルは作成しております。ご希望があればお声掛けいただければと思います。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	8	1		2		年2回の予定で訓練を実施しています。多くのお子様が参加できるよう今後も検討していきます。
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか 。	11					
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	10			1		
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	11					
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	11				なかなか環境に馴染めない性格ですが、本人が安心出来るような声かけ、環境が工夫されていて、こちらも安心して送り出せます。	今後も安心した療育を行い、楽しい環境を整えていければと思います。
	29	事業所の支援に満足していますか。	11				将来の就労についてなど様々なプログラムが計画されていて、大満足です。 これからもよろしくお願い致します。	今後も療育プログラムについて満足が行けるような支援を心掛けていきます。

公表　事業所における自己評価結果

事業所名	わいわいJr.

公表日　2026年　3　月　20　日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		充分な広さを確保し、療育環境を整えています。また必要に応じてパーテーションを使用し空間を確保しています	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	○		適切な職員数を確保しています。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		施設内に段差は無く、安全性を確保に努めています。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		環境の中で、落ち着いて過ごし、クールダウン出来る部屋を準備しています。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。		○	月例会議や毎日のミーティングで療育内容の振り返りと見直しをしています。不参加の職員にもノートなどで周知しています。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	今後実施を検討します。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。		○	計画を立てて職員のスキルアップに繋げられる研修を計画していきます。	計画した研修を実施していき職員が研修を受講できる環境を作っていきます。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		支援プログラムは、ホームページにて公表しています。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○			
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		定期的な会議やカンファレンスを実施しています。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか 。	○			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		子どもの実際の行動を把握、観察し評価（インフォーマルなアセスメント）を行い日常的な支援の工夫に繋げています。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○			
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○			

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		必要な際は個別で対応するなど児童の状況に応じて、活動や支援を行なっています。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		児童の受け入れの前に情報の共有を行いスムーズな療育に繋げている	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い､気付いた点等を共有しているか。	○		支援後の振り返りや気付いた点などの情報の共有を行っています。必要時には	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「４つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	○			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		自己決定を促す声掛けを行い、選択肢が広げられる支援を行っています。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○			
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。		○	相談支援事業所利用の児童は、本人の情報や状況の確認、把握するよう努めています。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。		○	該当事例がありませんが、今後可能な限り対応していきます。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか 。	○			
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		○	可能な限り対応していきます。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。		○	今後参加を検討していきます。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		送迎時や定期的な面談を実施し、迅速な情報の共有を行っている	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント･トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○			
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約の際に運営規定並びに重要事項の確認を行っています。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか 。	○		定期的な面談を設け、説明を行い同意を貰っています。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		定期的な情報の共有の中で、必要時には実施しています。	

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	○			
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		情報の発信を定期的に行い、周知できるよう心掛けています。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○			
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○			
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○			
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○			
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか 。	○			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		社内で再発防止に向けた会議を実施しています。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		全社において計画した研修を実施しています。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		該当事例がありませんが、やむを得ず実施する場合は、個別支援計画書に記載し説明や了承を得たうえで実施します。	

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	株式会社　芳野ケアサポート　わいわいJr.			
○保護者評価実施期間	R8年　2月　1日	～	R8年　2月　20日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	２６名	（回答者数）	１１名
○従業者評価実施期間	R8年　2月　1日	～	R8年　2月　20日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	４名	（回答者数）	４名
○事業者向け自己評価表作成日	R8年　3月　31日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員が、内部研修や外部研修を受講する機会や会社内での研修に参加出来る機会が確保されている	・研修に参加出来るよう業務調整を行い、研修機会の確保に努めている。 ・会社内での研修については、オンラインでの研修参加がおこなえる様に環境を整えている	・伝達研修により職員の質の向上を図る。会社として年間計画を作成しているため、職員が参加しやすい環境設定に努めていく
2	進学就労に向けた療育プログラム（SSトレーニング、LSトレーニング、PCトレーニング、作業トレーニング）	・活動の中で、進学、就労に向けたプログラムを準備している。集団での療育プログラムについても毎月活動内容を計画的に実施し、自己決定できる環境を作っている。自己肯定感が高められるよう職員の声掛けなど意識しながら取り組んでいる	・活動プログラムの教材を増やしていく事や職員の児童への声掛けや対応など日々学びの時間を増やしていく。プログラム内容の充実を図る
3	会社内での多職種連携が強化されている	・活動プログラムの新案など多職種との連携を会社内で行いながらプログラム作成などに繋げている。	・関わりの中で、更に強化出来る体制を作っていく。定期的に会議などに参加してもらう事で、更に療育内容を強化していく。専門的支援加算など取得出来る体制を整えていく

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	療育プログラムなど開設からの発信が不十分な面があった	療育内容の発信が不十分で合ったことや利用状況の情報発信が不足していた	・発信できる環境を増やしていく事や情報が分かるチラシを作成していく
2	保護者との関りや相談支援事業所への強みのアピール不足	・保護者同士の関わりの場が少なかった。また保護者や兄弟の参加出来る活動など少なかった	・保護者交流会の開催日を増やしていき、交流できる環境を作っていく。また兄弟や保護者が一緒に参加出来る機会を作っていければと思う
3	進学、就労に向けたプログラムの強化	年齢層に合わせた勝つdぷプログラムの作成を強化	２事業所の連携を強化し、課題分析に努めていく